

2014年3月28日

2013年度第5回研究会（通算第54回）

1, ホメオパシーで効果のあったケンネルコフの症例

さくら動物病院 高山明久先生

子犬のケンネルコフ 2 症例に対し、抗生剤を使用せずに、ホメオパシーとホモトキシコロジーのみで治療した。使用したのは Coenzyme compositum. Ubichinon compositum. Traumeel. Engystol. Bronchalis. Pulsatilla. Kali-bich など。

2, ホメオパシーにおける癌治療のレメディ

さこ動物病院 迫秀樹先生

癌治療に使われるホメオパシーのレメディを臓器別、癌の種類別、症状別に分類し、紹介した。

3, てんかんを呈した症例に対するホリスティックなアプローチ

エンゼルペットクリニック 名越譲治先生

MRI 検査で真性てんかんと診断された症例に対し、飼い主の希望でフェノバル等抗てんかん薬を使用しないで自然療法のみでの治療を求められた。そこで漢方薬、鍼治療、ホモトキシコロジーで治療を始めたところ、てんかん発作が減少し、コントロールすることができた。

次回の研究会は 2014 年 5 月 30 日に開催予定